

新 增 補 改 訂

動物分類表

東京帝國大學教授 理學博士 谷津直秀氏著

動物學に志すものは其專攻學科の性質如何を問はず各類相互の關係に就き系統發生學上の明晰なる知識を有し動物進化の鳥瞰圖を正確に腦裡に印せざる可らず、本書は分類學最近の進歩に基き全動物界の綱目を系統的に表示し各目の下に更に重要な屬名特に我邦產動物の學名を加へ一々和英獨名を並記したるもの今や第二版に於て携帶に便せんが爲形態を縮小したり共、屬の名數に於て凡を三百五十、日本名に於て三百、英名に於て約三百を反つて増加したり。其内容の改造膨脹せる前版に比し恰も一世紀を隔つるが如し。

工學博士 辻本滿丸氏著

海 産 動 物 油

菊 判 洋 裝 全 壹 冊
定 價 金 五 圓
郵 稅 金 貳 拾 七 錢

第四高等學校教授 理學士 市村 塘氏編

動 物 顯 微 鏡

實習 摘要

袖 珍 洋 裝 全 壹 冊
定 價 金 壹 圓
郵 稅 金 四 錢

菊 版 假 裝 全 壹 冊
紙 數 三 百 五 十 餘 頁
圖 版 十 二 個
定 價 金 參 圓
郵 稅 金 拾 貳 錢

通 橋 本 日 京
社 會 式 株 善 丸
(番 五 京 東 替 振)

町 西 上 岡 福
(番 千 五 岡 福 替 振)
町 分 國 臺 仙
(番 五 一 臺 仙 替 振)

筋 橋 齊 心 阪 大
(番 四 七 阪 大 替 振)
通 條 三 都 京
(番 三 七 一 阪 大 替 振)

動物學雜誌

(第三十二卷) 第三百八十四號

大正九年十月十五日發行

論說

トタテクモ科の新屬新種ワタセグモに就て (第三圖版)

岸田久吉

基本標品は明治四十四年六月十四日紅頭嶼に於て東京帝國大學教授理學博士渡瀬庄三郎先生同理科大學助手理學士朴澤三二及同使丁安田眞之助三氏が採集せられた雌で、現今東京帝國大學理學部動物學教室に保存されて居ます。

測定、雌で其の全長は一三五耗、上顎及蜘蛛を加へると自然の儘で一五五耗を算します。頭胸部の長さは五五耗、同じく幅が四〇耗、腹部の長さは七五耗、同じく幅が四・五耗あります。附屬肢の長さは次の表の通り。

	全長	頭	胸+腹	腹	腿	腿+脚	腿	脚
觸鬚	8.5	2.7	3.7	1.7	2.0	—	—	2.1
第1脚	13.7	4.0	5.5	2.5	3.0	4.2	2.2	2.0
第2脚	11.8	3.3	4.5	2.2	2.3	4.0	2.2	1.8
第3脚	10.5	3.0	3.5	1.7	1.8	4.0	2.3	1.7
第4脚	15.0	4.0	5.5	2.5	3.0	5.5	2.0	2.5

色彩、背甲腹部觸鬚及歩脚には黄灰色の毛が生えて居ます、其の内背甲では主として胸部に疎に在るだけであり腹部上面には非常に長いのが之も亦甚だ疎に生えて居るのであります。腹部や歩脚には黒色の小刺は無く又腹部に限らず暗色の條斑は全く見られませぬ。歩脚は別に先端に行つても赤味を帯びるなどの事は無く、又それに生えて居る所の長い剛毛も腹部上面の長い毛も全く他の部分のと同じ色合であつて、決して黄赤色を呈して居りませぬ。觸鬚や歩脚の各節間膜は素より色が淡いけれ共矢張黄灰色の範圍であります。唯背甲の中窩前方は濃褐色であつて殊に頭部の後半から後方に於ては濃く多少赤味を帯びて居ります。眼域では前列一體の周圍と左右各側に於て前列中眼、同側眼、後列の側眼の作つて居る三角形の區域が全く濃黒色であります。眼では前列中眼が黒い外は皆琥珀色を呈して居ります。上顎は其の毛總及

(論說) トタテクモ科の新屬新種ワタセグモに就て (岸田)

(論 説) ○トマテクモ科の新屬新種シタセクモに就て (岸田)

下顎の毛總と共に濃い赤褐色を呈して居ます。下顎及胸板は淡い暗褐色。大部分濃い黒褐色であります。下唇は唯褐色であります。蜘蛛は腹部と同じ濃さの色。下唇は唯褐色であります。蜘蛛は腹部と同じ濃さの色。黄灰色であります。

形状、背甲は低い。次第に僅かに前方に向つて隆起して居ります。長さは幅よりも遙かに大きくあります。全體長楕圓形で前後にほそつて居ります。けれ共前縁も後縁も殆ど截形であります。中窩は深く

ほそい横位の溝で弱く後曲して居り決して端直ではありませぬ。其の幅は眼域よりも狭く其の三分の二位であります。後壁は急峻であるが前壁はそれよりも少しく緩斜であります。放射溝は浅いものであります。眼丘は幅が大で長さの一・五倍位あつて、前縁は背甲の前縁に殆ど一致する程であるから額は殆ど有りませぬ。眼丘全體は殆ど半圓形で後方に狭くなつて居ります。前列側眼から背甲の前縁までの距離は其の長径の二分の一であります。前列眼の中心を連ねる線は前縁線同様弱く後曲であるが、後縁線は殆ど端直であります。先づ大體に云へば前列は殆ど端直であり、中眼間は殆ど圓形で、側眼よりも明かに小さく、中眼間は

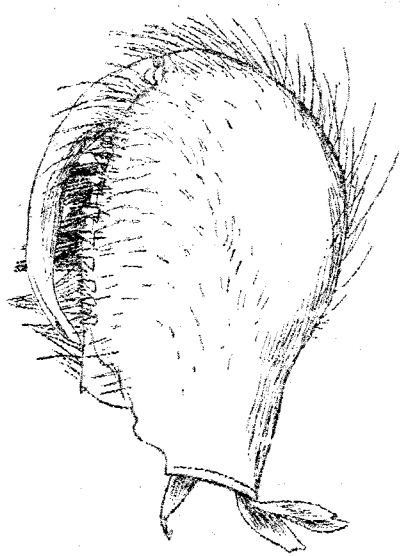


Fig. 1. Right chelicera, internal view.

第一圖 右の上顎 内側から見る

中眼の一直徑に等しくあります。側眼は長楕圓形で中眼間の中眼直徑の二分の一よりもほんの僅かに広いだけであります。後列は前列と殆ど同じ廣さで(少しは狭い)強くでは無いが明かに前曲し、側眼の中心を連ねる直線は中眼の中心よりも少しく後方を過ぎります。中眼は倒卵形で低く、明かに側眼よりも小さく、長軸は前方が外方を指して居ます。中眼間は前列中眼間の約三倍(弱)あつて後列中眼間よりも明かに廣い。側眼は長卵形を呈して居ります。中眼間は長楕圓形で前縁は後縁の三分の二位、長さは前縁と同じ位あります。前列中眼は後列のよりも僅かに大きい。兩列中眼間は前列中眼間よりも少しく狭いけれ共、後列中眼間の二倍あります。兩列側眼は眼丘上に於て更に區別されて居る所の同一丘上に在つて、其の間は前列中眼間に同じくあります。側眼の内前列のは明かに後列のよりも大形であります。

上顎(第一圖)は長くあつて背甲の二分の一位であるが左右から懸した様になつて扁く上から見れば頗るほそい事が目立ちます。上面前側及外下側には褐色の長毛が多く生えて居り、内側にはほそい毛が疎に生えて居ります。

中眼は殆ど圓形で、側眼よりも明かに小さく、中眼間は

牙堤の内、内堤には九本の殆ど同大なる齒（其の末端は黒い）が生じて居り、其の内側、體の中線に近く數本の總毛があり、牙の近くになると長い剛毛が生じて居ます、之から引續いて急峻な内側の上稜に半程まで剛毛が生じて居るのであります。外堤には澤山の赤褐色の總毛で明瞭な毛總を生じて居ます。牙溝の基部の方、内堤の四本程の齒のある所に相當する部分に二十本足らず鋭い小刺が生えて居ます。

下唇(第二圖)の長さは幅の三分の二位で、大體は横位の矩形を呈し中凸になつて居ます、即ち前後の兩縁及兩側縁は殆ど並行して居ます。最も前側角は多少前方が中向に削れては居りません。前方に沿うて居る前三分の一は乳頭狀の多數の顆粒を生じて居ますが、併し、前縁は決して中凹ではありませぬ。胸板は中凸で其の長さは幅にまさり四分の五倍あります、其の表面一杯に軟い絨毛が生えて居る上に尙ほ長い剛毛が疎に生え立つて居ります。最廣部は第二第三兩對の步脚の間に在ります。印刻は一對あつて明かに縁から離れて居り、其の位置は第三步脚の基部の所から前方が少しく中線を描いて走つて居ります。

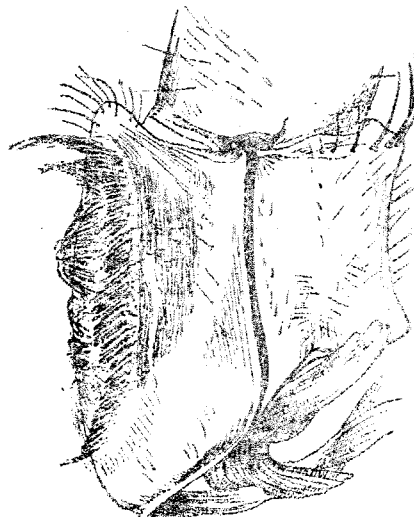


Fig. 2. Coxa of right palp, internal view.
右の觸鬚の基部の内側から見る

す。印刻間は下唇の幅よりも少し、廣くあります。胸板の後端は銳形で第四基部の間に挿まれて居ます。觸鬚は第一步脚の脛節の半分所まで達します。爪を除くと附節は脛節と同長で、下稜に連續した毛總を具へて居ます。總毛の數は爪の方程多くなつて居ります。爪は小形で其の兩側から下稜へかけて長い密な毛總が有りま

す。基部は基部の内前側に小齒を可なり多數に生じて居ります、内側(第三圖)の上部末端に十本許りの剛毛が有りま

三。膝+脛は第一脚のも第四脚のも同じで背甲とも同長であります。次に各對に就て記載をすれば第一脚では脛節は側面から見て長さ三分の一、附節の下稜全體には毛總があります。上爪は互に近接して居り、其の下方に互に近接した二群の毛總が有ります。併乍ら下爪は大きい土臺だけ見えるに過ぎませぬ。第二脚は短い外第一脚と似て居ます。第三脚は明かに第二脚よりもほそいが、武裝はたしかになつて來て居ます、即ち脛節の兩側共末端に大きい刺狀毛、蹠節前外側末端に二刺、後内側末端

(論 說) ○トタテグモ科の新屬新種トタテグモに就て (岸田)

(註) ○トタテケモ科の新屬新種シメシメモに就て (岸田)

の三の上下に各一刺を有して居ます。跗節上稜に四本位のラケット状毛があり、上爪が直立つて大きくあります。第四脚は第三脚に似て更に太く且つ長い。腿―跗までのすべての節の上稜には大きい刺状毛が澤山に生えて居ます。脛節は最も太くはなく、脛節に劣つて居ます。共、中央で太く兩端にはほそつて居ます。刺状毛は末端及下稜にもあります。蹠節は脛節と同長であります。後内側上稜近くの末端に間もなくよりほそくあります。後内側上稜近くの末端に間もなく所に一刺、下稜の末二分の一に連続せる毛總が有ります。跗節は上稜刺状毛間に九本許りのラケット状毛下稜に連続せる毛總を有し、中程で撓んで居ます。末端の上爪には少く共明かに一本の齒が有ります。下爪も小さい爪から明かに曲つたのが存在します。

腹部(圖版)は長卵形で、上面には長い毛が疎に生えて居りますが下面になると短い毛が密に生えて居ます。書肺は二對ありまして第一對の書肺の間の後方に胃外溝があり前方へ僅かに切込んで居るから此の種の基本標品は成體の雌と見做さねばなりません。腹部の何處にも小刺を見ませぬ。蜘蛛は二對、前疣は弱小で長さは太さの四倍ありますが後疣の中節よりもほそく且つ短くあります。後疣は前疣の後外側から突出して居り更に太く且つ長くあります。三節から出來て居まして末節は中節よりも長く、基節よりもほそく同長であり、末端にはほそつて居ます。肛疣は後疣基節の中程の中間に在つ

て半球状をして居り横に長い所の肛門が其の頂に開いて居ります。

分類上の位置 本種が R. SIMON 氏の System (1903) に従へば *Stylantia Avicularinae* に屬する事は明かであり、次に此亞科の内では上顎の外側に厚く毛總がある點と胸板の印刻が縁から明かに離れて居る點からして *Stylus Ornithocoma* に近いものらしく思はれます。若しオルネトクトムス群に入れるとすれば第四脚が第一脚よりも明かに長いからしてホルネオ産の *Cyllurogathus Hasei* H. E. POOCK (1895, Ann. Mag. nat. Hist. G. ser. vol. 15, pp. 183-184) と同じ屬に容めるが可い事となり、繭つてシモン氏のオルネトクトムス群なるもの由來を窺ふと R. T. POOCK 氏 (1895, loc. cit., p. 179.) が *Cyllurogathus*, *Metopus*, *Ornithinus*, *Ornithocoma*, *Phormingophilus* 五屬を總括して立てた *Familia Ornithocoma* に出づ、*Ornithinus* が *Priority* の關係から *Cyllurogathus* に改められた外に *Hyalopelma*, *Levipalpus* の二屬が附加されたものに過ぎませぬ。其所でボック氏の科の記載を見る。

上顎には外面及下面に短い羽状毛から出來た所の厚い毛總があります。毛總の下の場所は平滑であります。けれども其基部には上の毛總から跳返る所の大きな曲つた倒鉤状の剛毛を有します。下顎の近くの表面には疎に剛毛があります。けれども其縫合線の上下には突起状の刺がありま

す。跗節の毛總は大きくて連続して居ます。歩脚の脛節と蹠節の末端には刺があります(完)

と記してあります。E. SIMON 氏 (1903, Hist. nat. Aragn., 2^{me} Edit., p. 543) の群としての記載を見ると

上顎の外面に毛總のある事、第二型の鞭器ある事、上顎の外面基部に平滑部があり、四又は五本の長い刺のある事、之に相當する觸鬚基節の面の縫合線の下に毛があり、上は平滑なる事、胸板の印刻が卵状で縁から離れて居る事、下唇の武裝、歩脚の毛總の事などがあげてある様な次第で、小生の種を此群に入れるにしては、上顎外面に在る毛總が小生の記載に出したのは牙溝の外堤のものであつてホコック、シモン兩氏の云うて居る様なのは全く缺けて居る事を注意しなければならぬばかりか、基部の下方の剛毛は之を鞭器 (Stirpulating organs) の絛部 (Lyra) とし觸鬚基節の縫合線の小さい毛を鞭器の弓部 (Pecten) とするのにも共に曲解である事が明かに知れます (故に前掲小生の種の記載には鞭器を具へて居るとしませんでした)。歩脚の脛節や蹠節の問題は流石にシモン氏は論じて居ませぬが之はあまり重要でない所の條件となる程度のものでありませうからホコック氏の記載を抹消すれば可い様であります。下唇の武裝、歩脚の毛總は小生の種に於てはシモン氏の所述と僅かしか抵觸しないから問題にさせぬ。オルニトクトヌス群の屬の檢索表の内第四脚の脛節は蹠節よりも太くて蹠節と共に刺がある

と書いてあるのは屬や種の條件位のもので取立てと論ずるには及ぶまいと思ひます。

オルニトクトヌス群に編入するの不自然である事は前記の通りであります。それでもアピクテラア亞科中では小生の種を收容するに可也近い程度であります。而して此群中では *Chirognathus* 屬が最も近いものであります。併しホコック氏は特別に屬の記載と云ふものをして居らず、シモン氏も檢索表 (E. SIMON, 1903, loc. cit., p. 543) に掲げた以外には何も書いて居らぬので、小生がホコック氏の種の記載から重要と認める點を引出して比較をしてみます。

<i>Chirognathus</i> E. L. POORE.	比較點	<i>Yenia</i> K. KISHINA.
明かに端直であります	(一) 中高	弱く後曲であります
後曲であります	(二) 前列	殆ど端直であります
中眼V側眼	中眼A側眼	中眼A側眼
各眼間は等距離	中眼間V中側眼間	中眼間V中側眼間
前列側眼・後列側眼	(三) 兩列相 五の關係	前列側眼V後列側眼
外面上部に毛總があります	(四) 上顎	外面上部には毛總が無い
鞭器の絛部があります	(五) 牙溝	絛部は無い
牙溝の外堤に十四本の齒があります	(六) 兩側は並行して居り前縁は端直であります	牙溝の外堤には九本の齒があります
兩側は前方へ <i>curved</i> であり前縁は中間であります	(七) 下唇	兩側は並行して居り前縁は端直であります
第一基節間・第二基節間	(八) 胸板	第一基節間・第二基節間
基節には鞭器の弓部があります	(九) 觸鬚	基節に弓部は無い

(圖 説) ○トタテグモ科の新屬新種ワタセグモに就て (岸田)

<i>Yamada</i> sp. nov.	比較點	<i>Yamada</i> K. Kusuda
附節 膝節 又は 膝節	(七) 觸鬚	附節 膝節 又は 膝節
一 膝+脛 A 一 膝+脛	(八) 歩脚	一 膝+脛 B 一 膝+脛
一 脛の外側末端に有刺		一 膝は無刺
二 趾に刺は無く剛毛だけあり		三 趾には刺がたゞかに有ります
三 脛は趾よりも六、七倍と共有刺		四 脛は趾よりも三、四倍と無刺 趾は有刺
上面には後方を指せる所の小刺が密生して居ります	(九) 腹部	何所にも小刺は存在しません
基節中節は殆ど同長末節は最も長くあり	(十) 蜘蛛	中節は他の二節よりも短く 基節末節は同長であり
ホルネナ	(十一) 分布	紅頭嶺

牙溝の堤の上の毛總を除いて、上顎外側に毛總を具へて居らず、又、鞭器も(其の何型たるを問はず)有つて居ない、而も、歩脚が無刺又は趾端にだけ小刺があると云ふのはアビクアラリア亞科では *Tribus Aviculariae* の大多數の屬だけであり、アビクアラリア群は現今七屬知れて居り内二屬のアフリカ産である外はすべてアンテ、ル及中米以南の新大陸産であり、中米が大きく横位の卵形を呈して居るもの許りであり、故に本題の蜘蛛はアビクアラリア亞科のもので、オルニトクトムス群、アビクアラリア群、延いてはハルバクティラ群及ホネユサ群 (*Tribus Harpacticarum et Phoneyserae*) に近い獨特の群を爲すべき新屬新種と考へるのが至當であるとして、産地の土語名を其の儘屬名とし、此標品の採集せられた時の指導者であり且つ此標品を検する事を許された

所の恩師渡瀬先生に捧献して *Yamada andasei* 「ワタセグモ」と命名する事に致しまして群名を *Tribus Yamadae* と呼びます。群屬種の diagnostic descriptions は重複する煩を避けて次の歐文摘要に譲ります。

Neas on *Yamada andasei*, a new spider of the family Aviculariidae.

By
KYURICHI KISHIDA.

(Zoological magazine, Vol. 32, No. 134, October 15th, 1920).

Tribus Yamadae, K. KISHIDA, nov.

For the reception of the following remarkable spider belonging to the subfamily Aviculariinae, E. SIMON, I propose a new tribe, Yamadae, and a new genus, *Yamada*. The group is placed between the tribes, Ornithoetoneae and Aviculariinae, and comes near, also, to the tribes, Harpacticarum and Phoneyserae.

Tribe diagnosis—Chelicerae are not furnished externally with a dense pad (scopula) composed of short feather-like hairs or thickened rods, but with one composed of thickened setae only on the banks of the inguinal furrow. Stridulating organs are entirely absent. The median thoracic fovea is slightly procurved. The legs are armed with a

few short spines at the apex of the proarsi. Type genus—*Yania*, K. KISHIDA.

Genus *Yania*, K. KISHIDA, nov.

The generic name is given after the native name of the island where the holotypic specimen occurs.

Generic diagnosis.—With the characters of the tribe.

Type species—*Yania wakasaei*, K. KISHIDA.

Yania wakasaei, K. KISHIDA, nov. sp.

Japanese name.—Watasageana.

The specific name is given in compliment to Prof. S. WATASÉ, through whose courtesy I was able to examine this interesting novelty.

Specific description.—The holotype is an adult female, collected on the 14th July, 1911, in the island of Kotosho (Botel-Tobago) of Formosa, or Yami, as the natives call the island, by Prof. S. WATASÉ, Dr. SANDI Hozawa and late Mr. SHINOSUKE YASUDA, and preserved, now, as alcoholic specimen, in the museum of Zoological Institute, College of Science, Imp. Univ. of Tokyo.

Measurement in millimetres.—Total length of the body 13.5; length of carapace 5.5, width 4.0; length of abdomen 7.5, width 4.5.

Segments	Total	Proar-	Patella	Pro-	Tibia	Metatarsus	Meta-	Tarsus
Appendages		terior	and	tar-		and	tar-	
		sa	tibia	sa		sa	sa	
Palp	8.5	3.7	3.7	1.7	2.0	—	—	2.1
First leg	13.7	4.0	5.5	2.5	3.0	4.2	2.2	2.0
Second leg	11.8	3.3	4.5	2.2	2.3	4.0	2.2	1.8
Third leg	10.5	3.0	3.5	1.7	1.8	4.0	2.3	1.7
Fourth leg	15.0	4.0	5.5	2.5	3.0	5.5	3.0	2.5

Color. The carapace, the abdomen, palps and legs are clothed with yellowish gray hairs; the abdomen and all legs are never spotted with black spinules, moreover, without any fuscons stripe in any part of the body; legs are not apically redder; the long hairs or setae on legs and on the dorsum of the abdomen are merely yellowish gray but not yellowish red.

The carapace is low, slightly and gradually elevated anteriorly, considerably truncated at each end. The median thoracic fovea is deep, with its anterior and posterior walls nearly contiguous, transverse, weakly procurved but not straight, not so wide as the ocular area and about its two thirds in width; the radiating grooves are very shallow.

The ocular tubercle is about one third wider than long and its front edge nearly touches the edge of the

carapace.

(圖 說) オトメタマシ科の新屬新種 *A. taenioides* (新田)

Eyes; the anterior row is about straight but the line connecting the anterior edges or the centres of the anterior eyes feebly procurved, the medians are circular, apart a diametre from each other, and a little smaller than the laterals that are oblong and less apart from them; the posterior row is about as wide as the anterior row (a little narrower), recurved, the centres of the laterals a little posterior than a level with the centres of the medians which are obovate, low and distinctly smaller than the laterals, and separated from each other by a space which is about three times of the distance between the anterior medians. The median ocular area is trapezoidal, the anterior side being about two thirds of the posterior side and about same to its length; the anterior median eyes are slightly larger than the posterior medians; the distance between the median eyes of both anterior and posterior rows is a little narrower than the space between the anterior medians, but about two thirds of that of the posterior medians. The lateral eyes of both rows on each side are situated on a common prominence that is distinguished on the ocular tubercles, apart from each other by a space which is equal to that between the median and the lateral eyes of the anterior row, the

anterior laterals are distinctly larger than the posterior ones.

Chelicerae are armed with nine teeth of about the same dimension, and a most feeble scopula found only at the apical end of the inner bank and strongly developed scopula on the outer bank of the ungual furrow and less than twenty sharp spinules on the outer slope of the inner ungual bank, dorso-lateral surface of the chelicerae are not furnished with spinulae.

The labial part is about one third wider than long, transverse, parallel-sided, convex, densely spinulose along the anterior margin. The sternum is convex, wide at the base, about one fifth narrower than long, showing a pair of emarginal impressions running antero-internally from about the basis of third pair of legs; the shortest distance between these impressions is a little wider than the width of the labial part.

The palpalps stretched pass the middle of the tibia of the first pair of legs. The tarsus (not including the claw) having below the scopula which is thicker distally, is about equal in length to the tibia, and distinctly longer than the patella.

Eggs are decreasing in length in order of 4, 1, 2, 3. The patella and tibia of the first leg are equal in length to

those of the fourth or to the length of the carapace. The tibia of the first leg is about three and a half times as long as wide, unarced; the distal half of the metatarsus and entire lower edge of the tarsus are scopulated; the superior claws are furnished below with two scopulae; the inferior claw is only vestigial. The second leg is like the first, except shorter. The third leg is slender than the second pair; the tibia is furnished distally with long spiniform setae at the both side; the metatarsus with two spines at the distal part of antero-external side, and each two spines at distal fourth of postero-internal side; the tarsus is furnished with about four racket-shaped setae on the upper edge, and very large superior claws. The fourth leg is much like the third, but much stouter and longer; the tibia is not the widest of all segments, and thinner than the tannur, wider in the middle than at the two ends, arched with spiniform setae distally and below; the metatarsus is equal to the tibia in length but thinner, and has a spine dorso-distally, and furnished with an undivided and contiguous scopula under the distal half of

it; the tarsus is bent in the middle and furnished with about nine racket-shaped setae among the spiniform setae of the dorsal edge; the superior claws are furnished with a single tooth near their base; the inferior claw is short and strongly curved.

The abdomen is large, closely covered above with several short hairs and a few setae but not any spinulae.

The spinnerets are two pairs in number; the anterior pair is short and feeble, about four times longer than wide, thinner and shorter than the second segment of the posterior pair; the posterior pair is composed of three segments, its third segment tapering distally, longer and thinner than the second one, and thinner than the first one but equal to it in length.

The anal tubercle is situated between the first segments of the anterior spinnerets, semispheroidal, and at the pinnacle there opens wide anus.

Zoological institute, Science college,
Imperial University of Tokyo, Japan,
September 30th, 1919.